



ぶんしょかんつうしん 文書館通信

東御市文書館

vol. 25号

令和7年12月発行

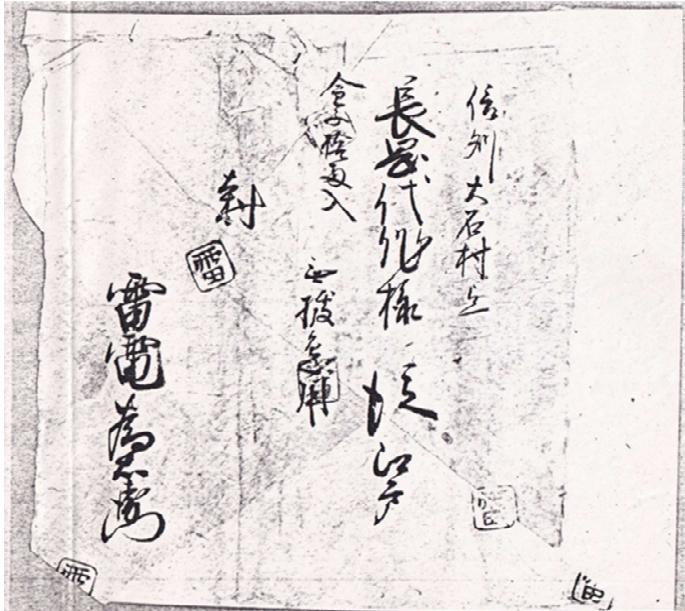
文書館直通 0268-67-3312
文化スポーツ振興課 直通 0268-71-0670
メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp



雷電為右衛門関没後200年企画展示 第3弾

本年は雷電為右衛門関没後200年にあたり、当館所蔵の番付表と手形扇面の写しを企画展示いたします。併せて、雷電関の錦絵等（複製）を展示しています。

雷電為右衛門関の書簡 文書館展示スペース



雷電関が生家を立て直すにあたり、その資金を国元へ送金した折の書簡（現在の現金書留）を包んだ封紙で、「雷」という封印が押されています。書簡の内容は、大石村 前名主 長岡代作宛に建設資金十両を送るので、先に渡した十両と合わせて二十両を預かってほしいとの内容です。

ビフォーアフター

移築・復元された雷電生家

寛政十年（1789）雷電関によって立て直された家は、老朽化のため昭和五十九年（1984）に「力士雷電生家」として移築復元され現在に至っています。建物は市の史跡に指定され、見学することができます。

当時の工事の様子の写真も展示中です。是非ご覧ください。



大屋仁王尊に伝わる雷電関の伝説・・・

当文書館が保管している、深井家文書の「大屋仁王尊境内改築落成の御知らせ」（昭和 11 年 10 月）の中に、大屋仁王尊の靈験として、雷電関に関わる言い伝えが載っていますので以下に紹介します。



「有名なる力士雷電の母は太い左縄をなってこの縄を引き切るような力強い健やかな子を授かりたいと こいねが 希い、この仁王尊へ丑の刻参りをいたしました。二十一日の満願の真夜中に縣村の三分迄まいりますと、不思議な妖気に打たれて歩む事が出来ませんでしたが、心に仁王尊を祈念して まっしぐら 薙地に参詣を済ませました。そしてその夜から懷胎したのが雷電であると申します。」 雷電関のお母さんは祢津村新屋の生まれだそうです。



松迎え

12月 13 日は『正月事始』の日とされ、歳神（お正月）様を迎える準備を始めます。歳神様を迎える依代として、門松にする松やおせちを調理するための薪など木を山へ取りに行く習慣があり、これを「松迎え」といいます。山へ行くのは家の主人で、年男になる人だけが行く地区もあるようです。

お正月の注連飾り

しめ縄は、神様が降りた神聖な場所を示すもので、これが張ってあるところには、不浄のものや悪霊は入れないとされ、一種の防御壁・魔除けの役割も果たしています。注連飾りを玄関に飾るのは、ここが歳神様を迎える家だということを表すためのもの。その年の新藁を用い、一夜飾りをきらって、三十日に飾るところが多いようです。

【東部町誌 民俗編から抜粋】

お正月の注連飾り 準備されましたか？



年神棚の「はかま注連」に飾られているものは？

歳神様を迎えるめでたい気持ちと、飢えることがないよう、祈願を表して・・・

豆の枝（丈夫で）

木炭（まくろくなつて）

柿（かき集める）

栗（くりまわしよく）

昆布（よろこぶ）

うらじろ（かげひなたなく）

をたたえて飾ります。

※地域により、飾りつけは異なります。